

## 「望ましい環境像」の絞り込みについて

環境像とは、市民・事業者・行政が連携・協力して、町田市の良い環境の保全、回復及び創造を推進するために設定するものです。

今回の審議会までの振り返りですが、アンケート調査（市民・事業者・学生）やワークショップ、タウンミーティングを実施し、幅広い年代からの要望やアイデアを収集しました。さらに社会動向・情勢、町田市の環境特性・強みについて調査分析を行いました。これらの基礎調査からキーワード、フレーズを抽出し、環境審議会、環境管理委員会等から意見聴取を行い、今回、事務局で環境像を複数案作成しました。

環境像を設定する上で以下の4つの着眼点を参考に12案に環境像を絞りました。①5つの基本目標と紐づいて（関連）いるか。②町田ならではの特徴が包含されているか。③すべての人が将来の町田を想像できるようなフレーズとなっているか。④社会動向・情勢や次期計画の方向性を加味したものとなっているか。審議会の皆さまにはこの着眼点を参考に提示した12案の環境像案から最大3つを投票により選んでいただきたいと考えております。

※資料3-2の投票用紙に選んだ環境像の番号をご記入いただき、1/24（日）までにご提出お願いいたします。

番号	環境像案	意図・背景・理由など
1	人とみどりが手をつなぎ、未来の世代へつなく まちだ	持続可能性や市民協働を意識した環境像として設定した。「未来の世代へつなく」を「未来の地球をまもる」に変更可。
2	やばいからヤバイへ 環境にやさしいまち まちだ	普及啓発の観点から設定した。 （やばい：温暖化等の危機、ヤバイ：環境配慮行動が格好いい の意味）
3	めぐり めぐる まちだ	自分たちが行ったことがめぐりめぐるという意味を込め、循環の言葉をわかりやすく表した。
4	わたしたちから未来のわたしたちに手渡す良好な環境 まちだ	未来に良好な環境を引き継ぐことが、遠い未来ではなく、子どもはもちろんのこと、自分たち自身にもはねかえってくるということを意図して設定した。
5	うららか、おだやか、にぎやかなまち まちだ	うららか＝温暖化の進行が遅れており、快適さをイメージした。 おだやか＝自然環境が豊かで落ち着くさまをイメージした。 にぎやか＝それでいて、多くの人を楽しんで暮らしている様子をイメージした。
6	Eco Re:Action まちだ ～あなたが引き継ぐ未来へのバトン～	将来へのベクトルを意識してバトンを受け取る一人一人が次へとつながるアクションを起こしていこうという意味を込めて設定した。市民一人一人が自分ごととして動いてほしい、アクションを起こしてほしいという思いをベースにしている。
7	持続可能な未来のため「自分ごと」として取り組む まちだ	持続可能な未来の町田市を実現するため、市民一人一人が自分ごととして行動することの重要性を表した。（「自分ごと」は、「（仮称）まちだ未来づくりビジョン2040」においても重要なキーワードになっている）
8	多様な環境をみんなでまもり・つくり・たのしむ まちだ	多摩地域を代表する商都であり、都心のベットタウンでもあり、多くの大学が集積する学園都市でありながら、水源地をはじめとした里山環境というさまざまな顔を持つ町田市が多様な環境を各主体が一体となって守ることはもとより、創造し、楽しむというより前向きな姿勢を表した。
9	都市と自然をつないで発展・共生する まちだ	都心から程よい距離にありながら多摩丘陵の豊かな自然が残る町田市は、近ごろ話題の“トカイナカ”のひとつ。そんな“トカイナカ”に位置する町田市では、都市と自然をつないでいく関係を構築していくことが地域循環共生圏のキーになるのではないかと考え設定した。
10	みんなで将来に受け継ぐ 水とみどり豊かな まちだ	現行計画の環境像でも示されていた「水とみどり」は町田市の特徴であり、将来においても受け継いでいく財産であることを表した。
11	つながりを力に 持続可能な環境を育む まちだ	「（仮称）まちだ未来づくりビジョン2040」の環境関連政策の「つながりを力にする」というフレーズに込められた、『人や団体を支えることが、特色ある地域づくり、みんなで実現を目指す目標の達成に寄与する』を念頭に、将来にわたってより良い環境を育むということを意図して設定した。
12	人と人、人と環境がつながる都市 まちだ	「つながり」をキーワードとして、一人ではなく人同士がつながることで発揮できる力と、この力で町田市の環境を守り、育み、楽しむことをつながるの一言で表現した。